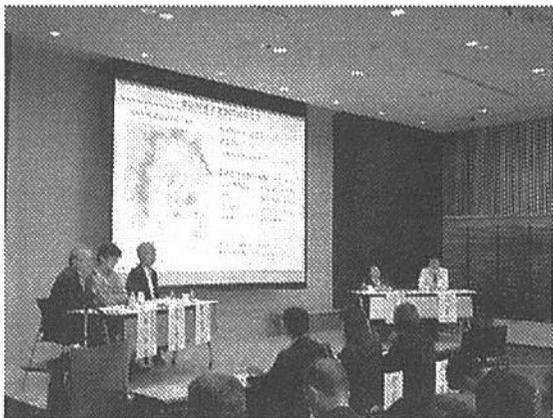


【オリエンタルコンサルタンツ 次代の防災対策多面的に考える 日本自治体危機管理学会がシンポ】



次代の防災対策 多面的に考える

日本自治体危機
管理学会がシンポ

日本自治体危機管理学会（会長・中邨章明大名誉教授）は、東京都新宿区の新宿NSビルでシンポジウム「次の時代の防災対策のあり方について」都市における防災課題を多面的に考える」を開いた。自然災害の頻発化や激甚化によって、より一層の防災対策が必要となっている中で、高齢化や国際化などに配慮した新たな防災対策が喫緊の課題となっているとし、「次の時代」にスポットを当て、都市の防災課題について多面的に話題提供し、知識を深めた。オリエンタルコンサルタンツが事務局を務めた。

シンポジウムは2部に分けて行い、第1部は藤山秀章河川財団理事、加藤孝明東大生産技術研究所准教授、垣内俊哉ミライロ社長らが登壇し、高齢者や障害者、外国人観光客など災害時に配慮が必要な人々の視点から、今後の防災対策の課題について話題提供した。

第2部は中林一樹明大政治経済学研究科特任教授をコーディネーターとして、国際的イベントの開催に伴い、外国人観光客、高齢者や障害者、地域コミュニティの希薄化に対して災害時に配慮すべき点などについて、活発にパネル討論した。写真。